

平成 29 年度千葉市芸術文化振興事業補助金 事業実施報告について

1 市民参加事業 申請事業数 10 事業、採択事業数 8 事業

(1)

行 事 名	第 49 回千葉市水墨画同好会連合会展
日 時	平成 29 年 7 月 11 日 (火) ~ 7 月 17 日 (月)
会 場	千葉県立美術館 4、5、6、7 展示室
主 催 団 体	千葉市水墨画同好会連合会
補 助 金 額	200,000 円
事 業 概 要	水墨画同好会連合会会員及び公募による水墨画・墨彩画・表装(掛軸)の展示や、来場者への水墨画体験教室を行った。展覧会鑑賞料、体験教室ともに無料。 水墨、墨彩画の展示 425 点 (公募作品 41 点) 表装(掛軸) 43 点 計 468 点
事 業 実 績	出展者 231 名 (一般参加者 34 名) 来場者 1,765 名 体験教室参加者 97 名 (児童 16 名)
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験コーナーは、特に土日には多くの子どもも訪れ待ち時間が出るほどにぎわった。 ・出品者数、出品数、観客数それぞれ当初の目標を達成できた。 ・今後も 49 回の伝統を踏まえ水墨画の普及、拡大に努めたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験コーナーの案内が一見会場に入っただけでは分かりづらいため、案内表示を目立つようにしたほうが良いと感じた。 ・体験コーナーには中学生と思しき制服姿の集団もあり、水墨画を体験し基礎を学ぶことができる場として、幅広い世代が気軽に楽しめるものになっていた。座卓と長机・椅子席と両方が用意されており、参加者の身体的な事情等にも応えられるような準備がなされていた。 ・大小さまざまな水墨画や掛軸など、数多くの作品を間近で鑑賞することができ、筆使いなどの奥深さを実感することができた。 ・出展数が多く一通り鑑賞するにはそれなりの時間、労力が必要だが、鑑賞者は備え付けのソファ等を利用し、それぞれのペースで鑑賞を楽しんでいた。適宜会員メンバーが声をかけるような場面もあり、交流の輪が広まっていくよい機会にもなっていると感じた。



(2)

行事名	第22回千葉県謡曲大会
日時	【能楽体験講座】平成29年8月～9月（1時間程度×3回実施） 【公演】平成29年9月9日（土） 9：45～16：40
会場	【能楽体験講座】新宿公民会、小中台公民館、千葉県文化センター 【公演】千葉県文化センター アートホール
主催団体	千葉県能楽連合会
補助金額	199,000円
事業概要	能楽連合会会員による謡曲、仕舞、舞囃子、小鼓の公演、能楽展示会及び能楽解説を実施した。また、事前申し込みにより、「謡曲」、「仕舞」、「小鼓」の3コースによる能楽体験講座を実施し、当日の公演に出演した。公演鑑賞料、受講料ともに無料。
事業実績	【能楽体験講座】参加者延べ30名（謡曲10名、仕舞11名、小鼓9名） 【公演】出演者100名（うち体験講座参加者の発表による出演者17名） 来場者250名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・市民が手軽に参加できる場の提供に大きな効果を発揮した。・全国的にも先駆けて「アマチュア団体による能楽講習・講座の制度化・恒常化」が実践されつつあり、能楽普及の進展と伝統芸能の継承・発展を目指す千葉県能楽連合会および傘下各同好会会友一同に、大きな励みと喜びを与えている。
視察所見等	<p>【能楽体験講座について】</p> <ul style="list-style-type: none">・謡曲コースを視察。男性3名、女性6名が参加。一テーブルにつき2名を基本として四列の配置であったが、最後尾の座席には椅子が用意され、受講しやすい環境づくりの工夫が見られた。・他のコースと重複して受講している参加者もあり、複数コースを設けているのは良いと感じた。・今回はコースとしては初回の講義であり、副会長が講師役となり、歴史背景や基本作法など、初心者に分かりやすい内容であった。・講師の手本の後に続けて声を出す場面では、本番に向けた真剣さが込められているように感じた。・あまり謡曲になじみのなかった市民にとって、能楽を体験するよい機会となっている模様。 <p>【公演について】</p> <ul style="list-style-type: none">・午後の会は体験講座の受講生の発表からスタートしたが、3コースの発表が15分弱であったためもう少し長めにとっても良いと感じた。（参加者：謡曲5名、仕舞4名、小鼓8名）例えば全員着物で出演するなど、単に発表の機会を設けるだけでなく参加したくなるような仕掛けがあっても良いと感じた。発表後にはステージ上で記念撮影が行われ、参加者からは達成感が伺えた。・複数のコースに重複して出演している人も見受けられた。・ステージ上から裏方と打ち合わせをしている様子が見られたのが残念だった。・各演目がアナウンスなく突然始まったり、次の演目が始まるまでに5分弱の空白

の時間があったり、進行面で改善できることが多くあるように感じた。

- ・演目によっては30分以上のものもあったため、ストーリーの紹介と併せて出演時間など簡単にでも演目ごとに解説があるとより楽しく鑑賞しやすくなるのではないかと。
- ・一般の観客は少ないように感じた。演目中に話をしたり視界を遮るように通路を歩く観客がいたため開始前に注意を促すと良いと感じた。
- ・展示物はロビー中央に目立つ形で配置されており、熱心に鑑賞している人の姿を複数見かけた。

○体験講座の様子



○公演の様子



(3)

行 事 名	第22回国際音楽の日コンサート（カルメン）
日 時	平成29年10月8日（日） 14:00～16:30
会 場	市民会館 大ホール
主 催 団 体	千葉県音楽協会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	市にゆかりのあるピアノ演奏者、市内で活動するプロの器楽団とプロ独唱歌手市立犢橋小学校の児童40名の編成による「国際音楽の日」記念コンサートを開催。G.ビゼー作曲「カルメン」を演奏会形式で第1幕～第4幕まで演奏した。
事 業 実 績	出演者115名（一般参加者40名） 来場者600名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・ 普段、なじみのないオペラを、身近に感じてもらったのが収穫だった。・ 広報活動、手段を、更に幅広くしていく必要がある。・ 弊会のホームページの拡充と、使いやすさを図りたい。・ 観客の高齢化が見えるので、若い人たちへの浸透を図りたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・ ほぼ満席。場内案内役も複数おり、混乱なく開演時間を迎えた。・ 原語上演であったが、字幕が付けられており、ストーリーを知らない観客にも分かりやすくなっていた。また、ナビゲーターが巧みな芝居で場面ごとに解説を入れることで、観客をより引き込む工夫がなされていた。・ パンフレットと併せてアンケートも配布していた。・ 公募者で構成された合唱団とソリストらの共演は迫力があつた。・ 若者をあまり見かけることがなかったため、何か工夫できるとよいと感じた。

(4)

行 事 名	第64回 千葉市民音楽祭
日 時	平成29年11月12日(日) 10:00~16:20
会 場	京葉銀行文化プラザ 音楽ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	千葉市を拠点に活動する合唱、器楽の団体が、29グループ集まって、午前午後の部に分かれて演奏。日頃の練習の成果を披露した。
事 業 実 績	出演者614名(参加グループ…合唱団25グループ、器楽等4グループ) 来場者600名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・単独の演奏会を開けない団体の、貴重な発表の場として、存在感がある演奏会となった。・より参加団体を増やすために、広報活動、手段を、更に幅広くしていく必要がある。・弊会のホームページの拡充と、使いやすさを図りたい。・参加者、観客の高齢化が見えるので、若い人たちへの浸透を図りたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・鑑賞者に対しても講評用紙が配布されており、今後の出演者の発表の向上に繋がる工夫がされていた。・開始時、客席とともに合唱の時間があり、会場で一体感が生まれていた。・団体名のめくりがスポットライト外で暗く見えづらかった。・客席での入れ替わりが多く、演奏中も出入りが目立ってしまっていた。・出演者も含めればほぼ客席は満席になっていたが、一般の観客は少ないように感じた。・参加団体が順々に発表していく構成となっており、成果披露の場としては意義があると言える。また、他の団体との繋がりや、他の団体の演奏を聴くことで刺激を受けさらなる発展に繋がるのではないかと思う。・参加団体が多く時間的に厳しいのかもしれないが、各団体が注目してほしい点や日頃の活動について積極的にPRするような場面があってもよいのではないかと感じた。・学生の参加もあり、やがて社会人になっても同じように舞台に立つことができる機会に繋がる場であるように感じた。

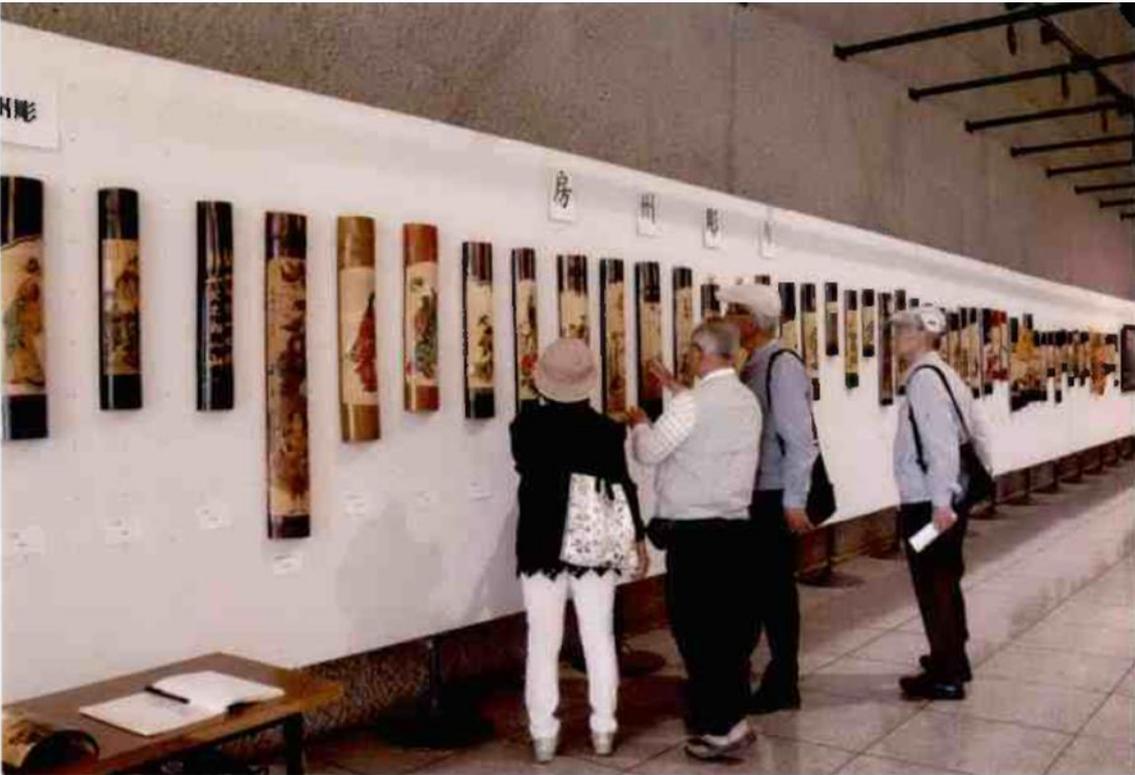
(5)

行 事 名	合唱団うぐいす～30周年記念演奏会～
日 時	平成29年5月14日(日) 14時00分～16時00分
会 場	京葉銀行文化プラザ
主 催 団 体	合唱団うぐいす
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	合唱団うぐいすの創立30周年を記念した演奏会。団員以外からも参加者を募り、アンサンブルを結成した。
事 業 実 績	出演者17名(一般参加者3名) 来場者497名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・新垣隆氏の作品を演奏するという新しい取り組みに挑戦したことにより、多くの方に鑑賞してもらうことができた。・反省点としてはホールが3Fだったため、開場前にたくさんのお客様が集まったことで階段を通して他の階まで並ぶこととなりご不便をかけたしまった。・今後も多くの作曲家や指揮者などとの演奏活動を行っていきたい。
視察所見等	<ul style="list-style-type: none">・開演10分前でもエレベーターホールに多くの方が列を作っていたので、次回から事前にチケットを販売するなどの工夫をしてもよいと感じた。・地元出身作曲家の新垣氏のトークは5分程度だったが、観衆の反応は上々で、新垣氏の冗談には笑い声も上がった。・一般市民向けではあるが会員向けの要素が多少伺えた。・3部構成の演奏会であったが始まりのアナウンスもなく、部の境目も曖昧だったため、一部毎にアナウンスがあっても良いと感じた。・演奏の途中、観客の携帯電話の着信音が鳴り響いてしまった。事前のアナウンスを徹底するなど工夫をしてもよいと感じた。・新垣隆氏の作品を演奏は初めてにも関わらず完成度の高い演奏であったように見受けられた。・第3部は主催団体以外の合唱団員と混合の演奏だった。第1部、第2部の主催団体のみ演奏とは毛色が違い印象的だった。相互に刺激し合い表現の幅が広がった結果だと感じた。



(6)

行 事 名	第55回千葉アマチュア美術会展
日 時	平成29年5月16日(火)～21日(日)9時00分～16時30分
会 場	千葉県立美術館
主 催 団 体	千葉アマチュア美術会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	千葉アマチュア美術会会員及び公募による洋画・日本画・版画・彫刻・写真・書道・工芸作品の展示を行う。 展覧会鑑賞料無料。
事 業 実 績	出品者293名 出展数757点 (内訳):洋画(82名・203点)、日本画(5名・15展)、 書道(4名・10点)、水墨画(12名・27点)、 彫刻(22名・61点)、写真(21名・57点) 版画(4名・11点)、工芸(143名・373点) 来場者2388名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none">・多くの美術愛好家に参加していただくことができた。・補助金の交付により、危険な会場設営、撤去を外部業者に委託することができた。・高齢化の波に押されないよう、若い参加者の参加を呼びかけて次世代へ継続させていきたい
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・例年に比べ新規出展者が多くいたこともあり、トータルでの作品数は増加したとのこと。知的障害者が描いた画も展示されるなど、多様性に富んだ展覧会と言える。・出展のジャンルは細かく分けると陶芸、布画、アートフラワー、割りばしアート、ビーズ等多岐に渡り、それぞれで展覧を楽しむ様子が見られた。・平日午後での視察であったためか、中高年がほとんどであった。・他の展覧会も同時に開催しており、本展覧会のスペースがやや分かりづらかった。各展示場の入り口にポスターを見えるように掲示すると、少し解消されるかもしれない。・手作りのシュトライヒプサルタ(ヴァイオリンの元となる楽器)の実演では人の輪ができ、閲覧者も手に取り奏で方のレクチャーを受ける場面も見られた。・閲覧者が作り手(会員)に質問したり、一方的な発信ではなく興味を広げていけるような場になっていた。会員側が誰か分かりやすいように、腕章など目印があるとよいと感じた。・手作り感に溢れた温かい展示スタイルが印象的だった。



(7)

行 事 名	和ー楽しもう鑑賞と体験ー
日 時	平成30年3月10日(土) 12時30分～15時30分
会 場	千葉市民会館
主 催 団 体	NPO 法人 BOSO
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	お囃子(はやし)や 津軽三味線、和太鼓、日本舞踊、琴、茶道等の鑑賞と、第10回千葉市芸術文化新人賞受賞者らプロによる指導の下、様々な伝統芸能の体験が可能。
事 業 実 績	出演者134名(一般参加者110名) 来場者280名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・伝統芸能の複数の部門の鑑賞と体験を一度に催すことができた。・幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけた。・日程の関係もあり、想定より人数が少なかったため、日程を含めて広報の仕方を工夫していく必要がある。・入場料を無料にすることで、より多くの方に鑑賞していく機会を提供したいと考えているが、現状ボランティア参加に負うところが大きいいため、収入確保に努力したい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・ホールの後ろ半分はテーブルで立ち入り禁止にした状態で、7割程度席が埋まっていた。・学生や小さい子どもを連れた家族もいた。・演奏前に楽器や曲の説明が入る(時代劇の〇〇のシーンで使われる…等)ため、初心者でも鑑賞しやすいと感じた。・4部構成で2部で各分野の体験ができた。基本的にはプロから指導を受け、その後発表を行った。・体験は小さい子ども、中学生、お年寄りなど幅広く参加していた。(出演者とスタッフの声掛けによりそこそこの人数が参加していた)・体験の発表では、観賞者も手拍子やリズムをとる等で発表に参加するような工夫がされていて、場内のみんなで公演を行っているような一体感があつた。・全体的に和やかで温かい雰囲気だった。・やや勉強会のような印象があつたので、プロの鑑賞を十分楽しみたい人にとっては物足りなかつたかもしれないが、世代を超えてさまざまな分野に触れることができるので、文化芸術に親しむ機会としては非常に良いイベントだと感じた。・プログラムやインフォメーションで英語が用いられており、外国人への意識も感じられた。



(8)

行 事 名	0歳からの親と子のにこにこスマイルコンサート vol. 10 ～10周年だよ！全員集合！！～
日 時	平成30年3月27日（火） 午前の部：10時30分～12時00分 午後の部：14時00分～15時30分
会 場	美浜文化ホール
主 催 団 体	スマイルコンサート実行委員会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	未就学児とその保護者を主な対象とし「見る」「聴く」「踊る」「歌う」の五感を刺激するコンサート。今回はその10周年を記念して、過去のゲストと新たに市民を公募して「スマイル10周年祝典オーケストラ！」を結成し、過去にない豪華なコンサートを実施。
事 業 実 績	出演者35名（一般参加者27名） 来場者264名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・子どもの参加者を募って一緒に演奏したこと、舞台に子供がのれるコーナー、小さな紳士淑女のためのコンサートでのゲスト全員での演奏、子供を引きつける道具をつかった演出に大きな反響があった。・一緒に参加した子どもたち全員から「またやりたい」との言葉があり満足してもらえたと感じた。・今回は参加者を募ることで、その友人や家族も聴衆となったので集客アップが図れた。ただ通常公演はゲスト演奏のみのため、今回のような音楽的満足感をどう得るか、検討していかなければならない。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・9割ほど席は埋まっており膝上の子も多数いたので、座席数以上の観客がいたと思われる。・観客席には父親の参加も多かった。・出演者が客席に行き、演奏をする等もしていた。・しりとりをしながら、子どもに答えを求めつつ楽器で動物の鳴き声を披露したり、曲にでてくる動物のハリボテを用意するなど、ただ、演奏するだけに終わらないよう工夫がされていた。・基本的には子どもが騒いでいても問題ない演奏会だが、10分程度だけ実際のコンサートのように静かにしなければならぬ時間を設けたり、楽器を間近に観れるよう檀上に上られる時間帯があるなど、音楽文化に触れる機会も設けられていた。・子どもたちが出演者と一緒に演奏する時間では、子供たちは緊張しながらも一生懸命演奏をしており、会場も温かく見守っていた。・全体で90分程度で、休憩もはさんでいたものの、後半は子どもたちの集中力が切れていたようにみえた。・終始皆笑顔で、参加者にとっては非常に満足度が高いと思えるイベントだと感じた。



2 市民育成事業

申請事業数 1 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	千葉ジュニアオペラ学校&クラシック音楽アカデミー 2017
日 時	平成29年7月15日(土)～10月15日(日) 【公演「ヘンゼルとグレーテル」10月7日(土)、9日(月・祝)】
会 場	【講義】市立花園中学校、風の丘HALL 【公演】風の丘HALL
主 催 団 体	小空間オペラ TRIADE
補 助 金 額	300,000円
事 業 概 要	主に小中学生を対象とし、公募により夏休みの期間、舞台専門講師によるオペラや舞台の講義(全16種類)を実施。合唱や合奏、声楽の指導もあり。また、希望者はプロと一緒に公演に出演した。
事 業 実 績	【講義】参加者 ○ジュニア(小学生対象) 40名(小学生20名と保護者(聴講での参加)20名) ○ベーシック(中学生～高校生対象) 4名 ○リベラル(大学～大人対象) 1名 講座単科受講生 延べ12名 【公演】出演者35名(うち参加生徒14名) 来場者171名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を使うからこそできる子ども達や市民の心の成長を着実に実施する術を得たと感じている。 ・講義の内容については、楽器の講座は経験者のレベルによって演奏できる出来ない曲、と分かれ、数時間では一緒に楽器に親しみ合奏することは出来ないと判明。歌とは全く違うという事がわかった。他講義は好評をいただき、無事修了した。 ・たった2か月半だったが、自己表現と自信を持った子供たちの明るさを増した表情、積極的な発言力と、大変成長し、向上した本校事業として終わることが出来た。
視 察 所 見 等	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮法についての講義回で、男女合わせて10名程度の参加であった。 ・一方的な講義ではなく、その都度子どもたちに問いかけ、考える機会を与えるなど、丁寧に指導を行っていた。こどもたちも一生懸命で、反応もよく皆明るい表情で楽しそうに講義を受けていた。 ・指揮を実際に行う場面では、最初戸惑って指揮棒を握っていた生徒が、指導を経て徐々に自信をつけ最後には大きな拍手を浴びるまでに上達した場面を見ることができ、よい講義であると感じた。 <p>【公演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座席はほぼ満席で、年齢層も幅広かった。 ・舞台構成も限られた場所を有効に使用しており、客席との一体感があった。

舞台までの距離も近く、演者の表情までしっかり見ることができ、プロ演者の迫力もさることながら、出演した子どもたちの一生懸命な姿を間近で見ることができた。

- ・夏休み以降、限られた練習期間であったと思うが、子どもたちの合唱はきれいで統制がとれており、また、舞台上でもトラブルなく役割を最後まで演じることができていたことから、育成事業としての成果が確かにあらわれていたように感じた。

○講義の様子



○公演の様子



3 市民参加特別事業

申請事業数 3 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	第 4 回ちばシニア劇団 PPK 4 8 公演
日 時	平成 2 9 年 9 月 2 1 日 (木) 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0
会 場	千葉市文化センター
主 催 団 体	ちばシニア劇団 PPK 4 8
補 助 金 額	9 0 0 , 0 0 0 円
事 業 概 要	高齢社会を明るくするための社会貢献を目的にシニア劇団がミュージカルを実施。歌詞カードをプログラムに入れ一緒に歌ったり、演出で、会場参加者は全員、劇中の街の人とするなど観客も参加できる内容とした。
事 業 実 績	出演者 3 4 名 来場者 5 0 0 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇鑑賞にとどまらなかったこともあり、喜びの声も多数いただき、入団希望の問合せも多くあった。 ・成功したと自負しているが、市民からも継続していくことが求められており、そのための課題は残っている。 ・私たちの「シニアがシニアを支える活動」は、今後、高齢社会にとって重要性を増すものと思っているが、千葉の芸術・文化への理解が非常に希薄と感じる。芸術・文化は生きる活力に直結していることを、関係者や行政とともに協働体制を構築しアピールしていきたいと考えている。 ・芸術・文化の衰退は街の衰退にも影響を及ぼしているという事実、市民がもっと目を向けてくれるようになれば、千葉市の発展にも繋がると思う。それには、私たちのようなボランティアが、もっと活動できるようなシステムづくりが必要なのではないか。千葉市は稽古場や公演会場が高すぎる。趣味や営利目的で使用する場合と、我々のようなボランティア活動の一環で使用する場合と分けるべき。 ・市民のための活動であるか否かの基準を作り、認められた団体については、一時的な補助金よりも、活動費削減に繋がる会場使用料の減額をぜひ検討していただきたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・会場前、スタッフによる観客整理がきちんとされており、多くの観客が混乱なく客席に到達できるよう配慮されていた。 ・公演開始 5 分前頃に、観客に向けて歌と振り付けの確認の時間があり、会場は早くも盛り上がっていた。 ・公演のテーマが何歳になってもできるという前向きなものであり、観客に対してのメッセージ性の高さを感じた。 ・笑いを誘う場面や時事ネタを盛り込み、観客を飽きさせない工夫が随所に見られた。 ・ミュージカルとして織り込まれる歌と踊りの場面では、誰もが知っているような曲が選択されており、観客との一体感はあった。一方で、曲の音量に歌い手の声量が足りず、歌詞が聞き取れない場面も見受けられた。

・公演終了後、会場を後にする観客の反応から、満足感を得られたという印象を受けた。出演者がロビーに顔を出し挨拶していたが、あちこちに人だかりができていた。

